

元荒川(南叡島)出土の板碑群

越谷市 平方会野川 39-5 加藤 幸一

1. 板碑の本場 埼玉県

板碑は、板石塔婆とか青石塔婆とも言われ、自分の死後の冥福を祈る逆修供養、あるいは死者の冥福を祈る追善供養のために建てる石でできた供養塔である。

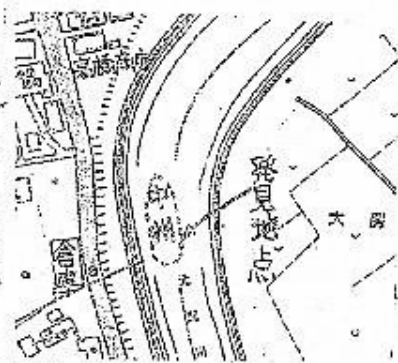
最古の板碑が荒川流域近くの埼玉県江南村の大沼公園弁天島で発見されるなど、ごく初期の板碑が埼玉県大里郡・北埼玉郡・北足立郡の荒川に近い地域に分布していることから、板碑の発祥地は荒川中流域と考えられている。その板碑の石材として、荒川上流の叡父地方で採れる、板状にはがれやすい性質をもつ緑泥片岩が利用された。これらの板碑を武蔵型板碑といい、埼玉県内を流れていた当時の荒川流域を中心に、埼玉県の他に東京都全域、群馬・栃木・茨城の各県の南部、千葉県西部、神奈川県東部などに分布している。これらは全国でも最も形態が整っていて、最も多くみられる。つまり、武蔵型板碑は質量とも全国一を誇っているのである。特に埼玉県は板碑の本場といえる。埼玉県教育委員会が昭和51年10月から56年3月までの5ヶ年間の月日をかけての板石塔婆緊急調査によると、昭和55年9月30日現在で20,201基を確認している。

2. 越谷市の板碑

板碑は川を利用して各地に運ばれたと考えられている。越谷市内を貫通している元荒川は当時の荒川主流であったため、市内各地に板碑が豊富にみられる。昭和44年発行の「越谷市金石資料集」によると、九十六基及び破片四十数個が確認されたという。また、6年後の昭和50年発行の「越谷市史第一巻 通史上」によると、総数134基確認(破片を除く)されたという。その後もかなり発見されている。再調査が必要である。

3. 元荒川出土の板碑群発見のいきさつ

昭和47年(1972)6月17日の夕方近くに、南荻島農協倉庫前の元荒川の中州より、桃木源之助氏(神明2-235, 大正11年4月生まれ)によって大量の板碑が偶然にも発見される。その中州は現在はない。



その日、小舟で漁をしていた桃木氏が、最後に投網を引き上げて漁を終わりにしようとしたところ、その投網に板碑がひっかかったことがきっかけである。幸いなことに元荒川の水量が少なく浅かったため、大量の板碑を小舟に引き上げ、自宅に持ち帰って年号を見ようと表面のどろを洗い落とす。これらの板碑の中に、金文字のあるものもみられた。

のち、桃木氏は四丁野の^{しちじょうの}迎授院^{ごうじゅういん}(宮本町2-54、塚田有祥住職)に預ける。その後、当時の福祉会館(現、越ヶ谷2-2)にあった市史編纂室に保管されるが、最終的には昭和56年に^{みた}見田^{かた}方遺跡公園に越谷市立郷土資料収納館が完成したのを機会に、同年4月16日にここに移され、今日に至っている。

なお、桃木氏及び塚田住職によると、発見した地点にはまだまだ多くの板碑が埋もれているであろうとのことである。埋もれたままになっているその他の板碑の採集が望まれる。

4. 元荒川(南荻島)出土の板碑の数

年号の解読できる板碑 ----- 22基

内訳 (ほぼ克形の板碑 15基 (うち3基は基部欠落)

欠落した板碑 7基

年号はわからないが、供養者名のわかる欠落した板碑 -- 2基

一部解読できる欠落した板碑 ----- 7基

破片・その他 ----- 7基

※康正3年(1457)から明応8年(1499)にかけての板碑群である。この頃の特色は逆修供養が圧倒的であり、一墓に一人の供養者名が刻まれ、その戒名も禅門・禅尼が主流。元荒川出土のこれらの板碑群もその例にもれない。

元荒川(南荻島)出土の板碑群一覽表

○印はほぼ完形の板碑

No.	年号	西暦	月日	高さ	幅	主尊	伏羲者名	備考
①	康正3年	1457	4月9日	62.4	17.8	弥陀一尊	妙真禅尼	
2	康正3年	1457	7月3日	41.0	17.8	不明	道金禅門	上部欠落
③	寛正4年	1461	2月24日	47.8	13.7	弥陀一尊	妙心禅尼	二条線なし
④	寛正4年	1461	9月5日	35.9	14.9	弥陀一尊	妙□禅尼	基部欠落
⑤	寛正7年	1466	7月28日	51.1	14.9	弥陀一尊	妙□禅尼	二条線なし
6	寛正年間			15.5	11.3	弥陀一尊	不明	上・下部欠落
⑦	応仁元年	1467	2月8日	73.5	18.5	弥陀三尊	妙心禅尼	
⑧	応仁3年	1469	9月16日	86.3	21.1	弥陀三尊	妙敬禅尼	光明燭あり
⑨	文明3年	1471	9月12日	43.4	13.4	弥陀一尊	妙観禅尼	{二条線なし 逆修あり
⑩	文明5年 (癸巳)	1473	7月□日	46.9	13.1	弥陀一尊	性祐禅門	月輪あり
⑪	文明7年	1475	2月10日	54.2	17.9	弥陀一尊	道光禅門	
12	文明7年	1475	□月8日	23.6	14.0	不明	□□禅尼	上部欠落
⑬	文明9年	1477	7月18日	44.8	14.0	弥陀一尊	道音禅門	
14	文明9年	1477	10月	38.0	17.2	弥陀三尊	応妙禅尼	{上部欠落 逆修あり
15	文明9年	1477		45.4	17.2	弥陀一尊	妙□禅尼	右側欠落
⑮	文明10年	1478	9月18日	40.2	12.2	弥陀一尊	道教禅門	
⑯	文明18年	1486	2月吉日	65.9	21.1	弥陀三尊	妙心禅尼	{逆修あり 金泥あり
⑰	文明19年	1487	5月17日	53.2	19.9	弥陀三尊	圓□禅門	{二条線なし 基部欠落
⑱	文明19年	1487	10月22日	56.4	17.5	弥陀一尊	妙心禅尼	{二条線なし 金泥あり
20	文明年間			42.6	23.1	弥陀三尊	不明	{下部欠落 金泥あり
21	文明年間		12月20日	22.3	11.9	弥陀一尊	道□□□	{下部欠落 金泥あり
⑳	明応8年	1499	正月□8日	54.9	21.4	弥陀三尊	妙因禅尼	基部欠落
23	不明		正月1日	31.7	15.6	不明	妙心禅尼	上・左欠落
24	不明		6月18日	30.6	14.9	不明	□教禅門	上・左欠落

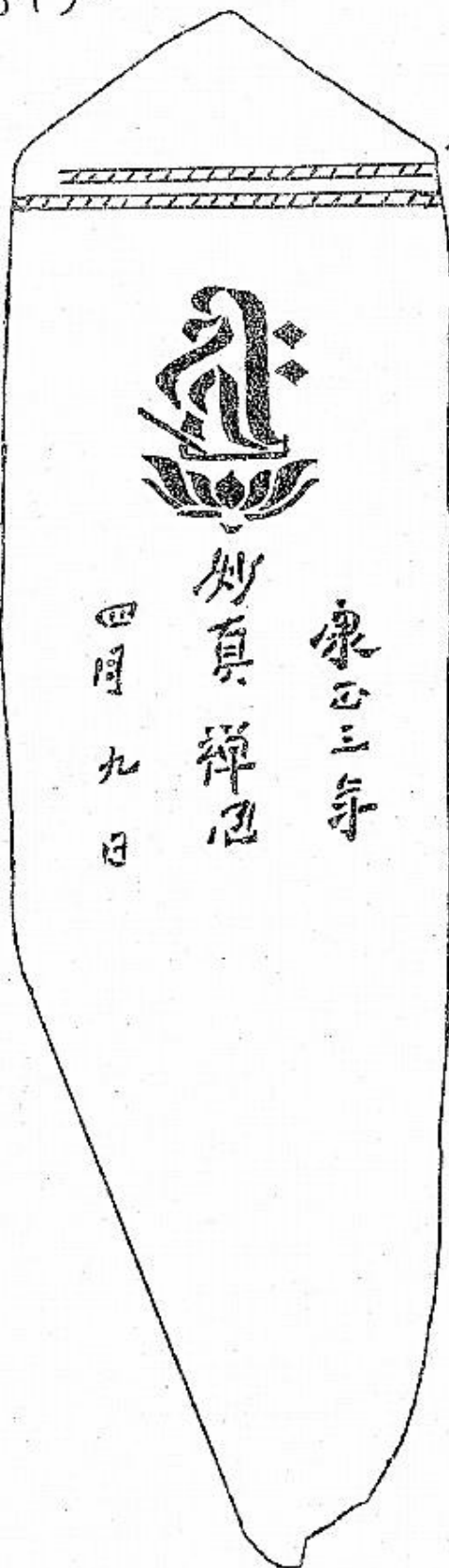
1. 康正3年(1457)

4月9日

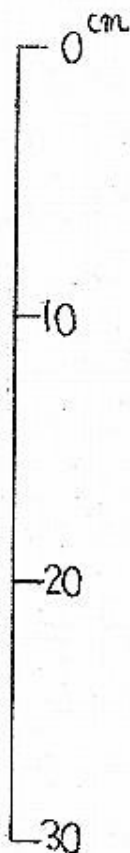
弥陀一尊種3板碑



妙真
四月九日
禪尼
康正三年



彫りのごく浅い
二条線

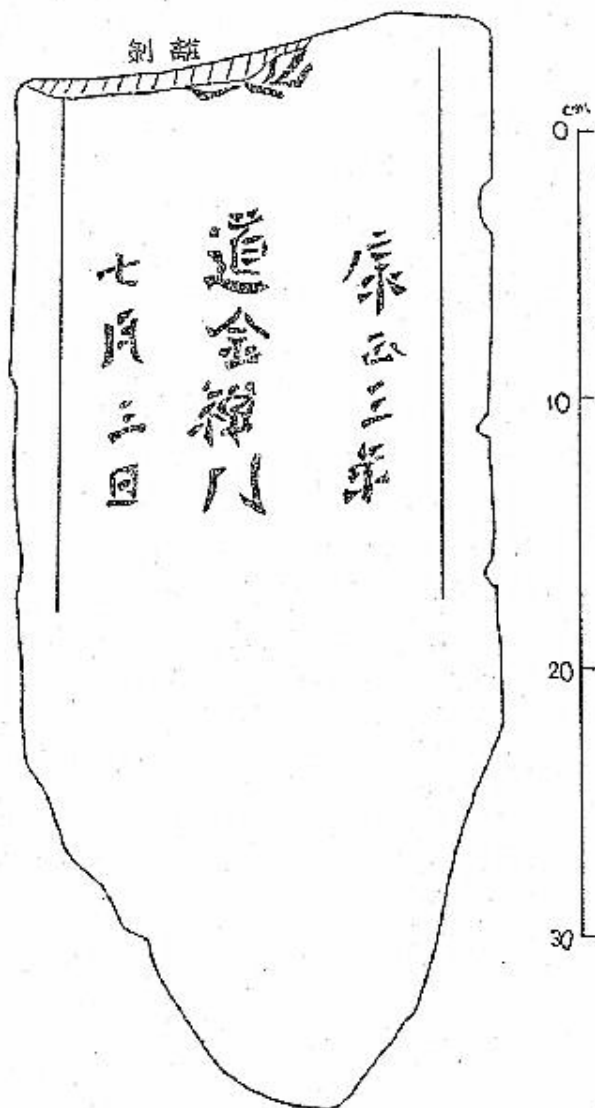


※ 妙真禪尼という戒名
を持つ女性が、康正
3年4月9日に逆修
供養したのであろう。
二条線の彫りが浅い
のは後期の板碑にみ
られる特色である。
なお、蓮台上部に花
心がみられる。

2. 康正3年(1457) 7月3日

主尊不明

康正三年
道金禪門
七月三日



※ 道金禪門という戒名を
持つ男性が、康正3年
7月3日に逆修供養し
たものであろう。

3. 寛正4年(1461) 2月24日

弥陀-尊種子板碑



二月廿四日
妙心禪尼
寛正二年

この板碑には二条線が刻まれていない



※ 妙心禪尼という戒名を持つ女性が、寛正4年2月24日に逆修供養したものである。妙心禪尼と刻まれた板碑は、この他に、No.7, No.17, No.19, それに、年号不明の板碑に1基みられる。また、元荒川出土の板碑の他に、四丁野迎撰院保管の文明17年(1485)3月10日の板碑にも供養者名は妙心禪尼となっている。すべて同一人物であろうか。なお、昭和62年2月頃、西方大聖寺境内でみつかった永祿元年(1558)の板碑には、妙心禪尼の戒名がみられるが、年代がはなれているため別人であろう。

4. 寛正4年(1461) 9月5日

弥陀一尊種子板碑



九月五日
妙□禪尼
寛正二年^(四)



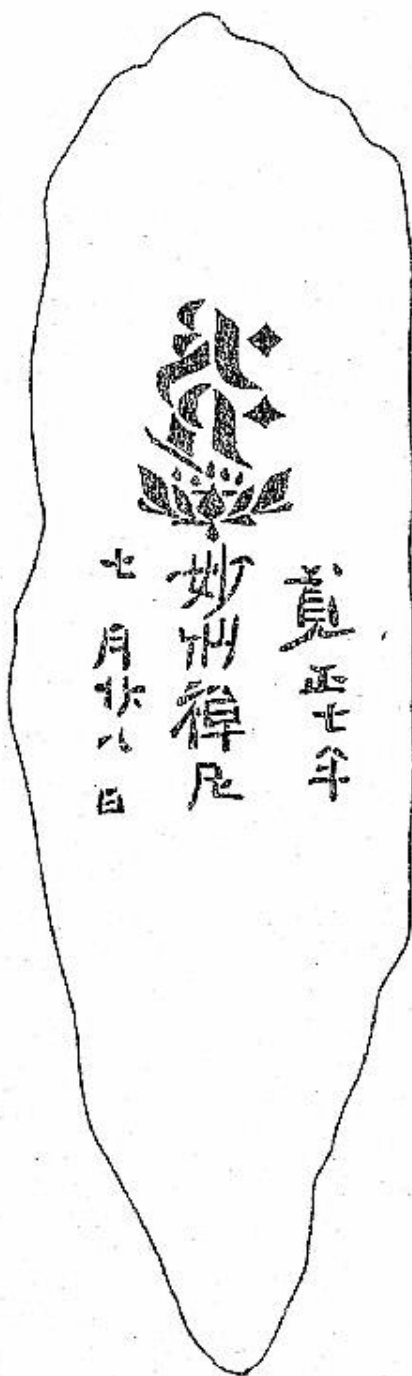
※ 妙□禪尼という戒名を持つ女性が、寛正4年9月5日に逆修供養したものである。蓮台上部に花心が描かれ、板碑上部には、二条線がかろうじて刻まれている。

5. 寛正7年(1466)7月28日

弥陀-尊種子板碑



寛正七年
妙□禪尼
七月廿八日

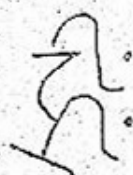


寛正七年
妙州禪尼
七月廿八日

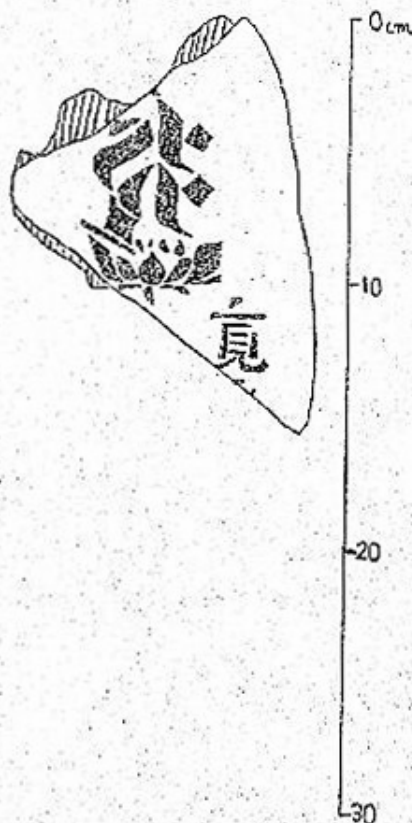


※ 妙□禪尼という戒名を持つ女性が、寛正7年7月28日に逆修供養したものであろう。
上部には二条線がみられないが、このように二条線の消失は後期にみられる傾向である。

6. 寛正年間



寛
正



※寛正年間に造立された弥陀
一尊種子板碑の破片である。

＝ なぜ河川敷から一度に多数出土したのか ＝

板碑は、よく墓地などの土中や河川敷から一度に多数発見することがある。板碑の造立は慶長年間以降全く絶たえてしまうことから、徳川氏の関東入国に際し、政策上より従来の歴史を湮滅するため、例えば、旧来在住の土豪らが由緒を知られることを恐れて板碑を埋没したとの俗説があるが疑わしい。板碑の信仰が人々から忘れられ、土中に埋没されたり、川に捨てられたりしたのであろうか。千々和^{ちぢわ}美氏によると、板碑埋没の理由を「この城下町に集まった地主たちこそ、中世を通じて、主として板碑を造立した階層である。彼らはこの板碑を在地に残して城下町に去ったから、無縁仏となった板碑は在地農民によって埋没された。いわば中世の大清掃である。」(ニュー・サイエンス社「板碑研究入門」)としている。板碑埋没の理由はなぜに包まれていて、今だによくわかっていない。

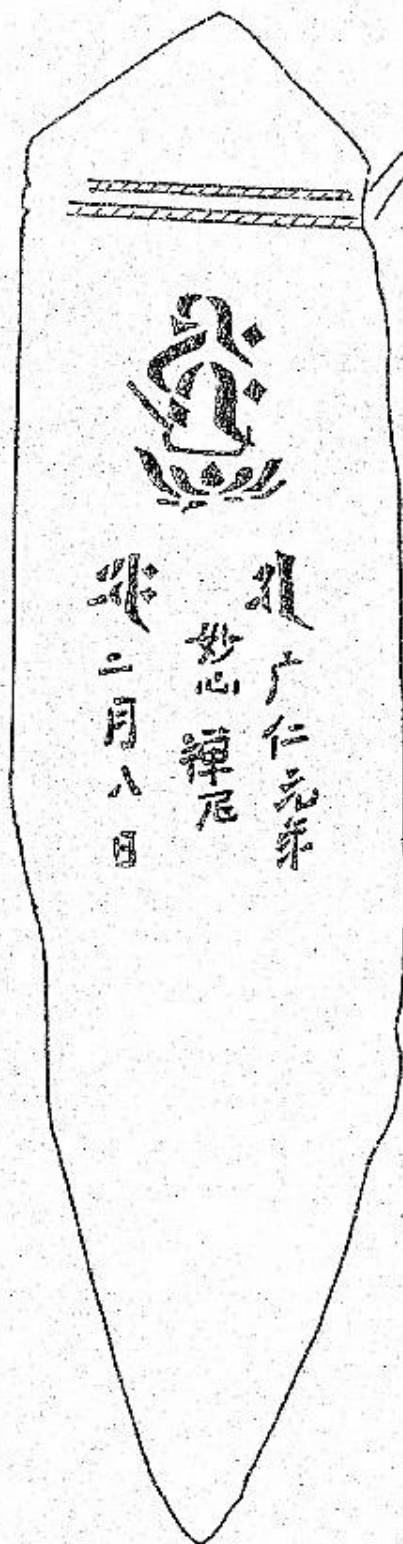
南荻島の元荒川で大量の板碑が埋もれているのはなぜなのか。つまるところ、よくわからないのであるが、元荒川(当時は荒川本流)の自然堤防上に発達した村落に住む有力者である土豪はもちろん、信仰熱心で裕福な名主(みょうしゅ)クラスの庶民の男女が、寛正年間から明応年間にかけての四・五十年間に、自分たちの逆修供養のため板碑を建立したものが、板碑信仰が忘れられた江戸時代の人々によって、この川に大量に捨てられたのではあるまいか。これらの板碑の中には、古志賀谷氏などの土豪たちの戒名と刻まれているのであろう。

7. 応仁元年(1467) 2月8日

弥陀三尊種子板碑



此 二月八日
此 妙心禅尼
此 応仁元年



彫りのごく浅い
二条線

0cm
10
20
30

※ No.3 の板碑に刻ま
れている妙心禅尼が
応仁元年2月8日に
も逆修供養をしたも
のであろう。蓮台の
上部に花心がみられ
る。

8. 応仁3年(1469)

9月16日

弥陀三尊種子板碑



光 妙 光

巖

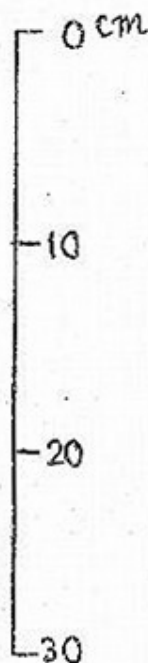
光明 十方 遍照
念禪 尼應 仁三月 己
佛衆 生十六日 丑
撮取 不捨

光 妙 光

巖

光明 十方 遍照
念禪 尼應 仁三月 己
佛衆 生十六日 丑
撮取 不捨


彫りのごく浅い
二条線

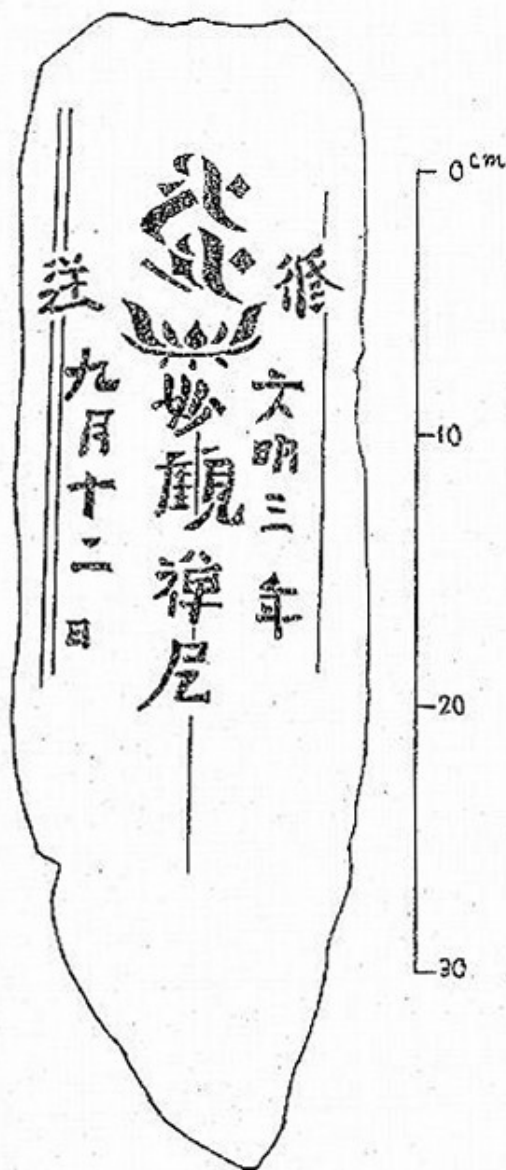


※弥陀板碑にしが刻ま
れない「光明遍照
十方世界 念仏衆生
撮取不捨」という傷
文がみられる。妙巖
禪尼という女性が応
仁3年9月16日に
逆修供養したもので
あろう。蓮台上部に
花心がみられる。

9. 文明3年(1471) 9月12日

弥陀一尊種子板碑

逆  修
九月十二日 妙觀 禅尼 文明三年



※ 妙觀禅尼という戒名を持つ女性が、文明3年9月12日に逆修供養したものである。

この板碑には、二条線がみられない。

10. 文明5年(1473) 7月3日

弥陀一尊種子板碑



文明 美巳
性祐 禪門
七月 三日



※ 性祐禪門という戒名を持つ男性が、文明5年7月に逆修供養したものである。主尊キリ一ウのまわりに月輪がっりんが描かれている。

11. 文明7年(1475)2月10日

弥陀三尊種子板碑



此
二月十日

道光
禪門

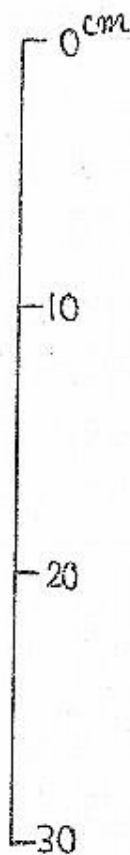
文明
七年

此
二月十日

道光
禪門

文明
七年

彫りのごく浅い
二条線

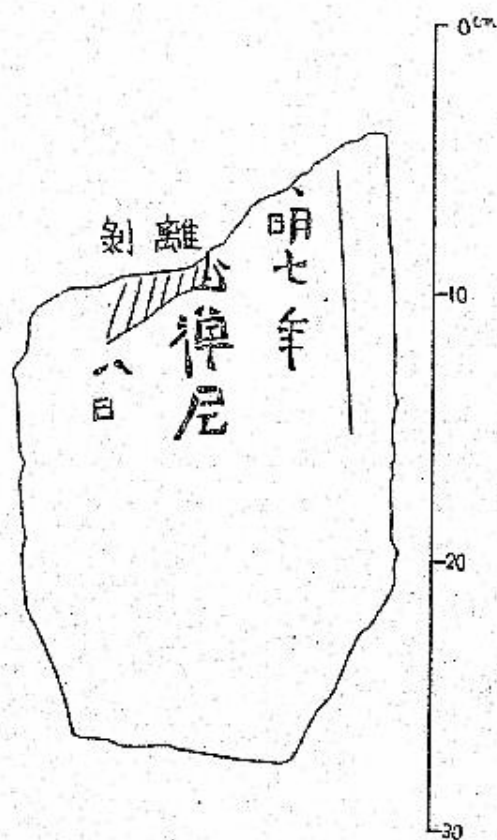


※道光禪門という戒名を持つ男性が、文明7年2月10日に逆修供養したものであろう。

12. 文明7年(1475) □月8日

主尊不明

□
□
□
心?
禅
尼
八
日
文
明
七
年



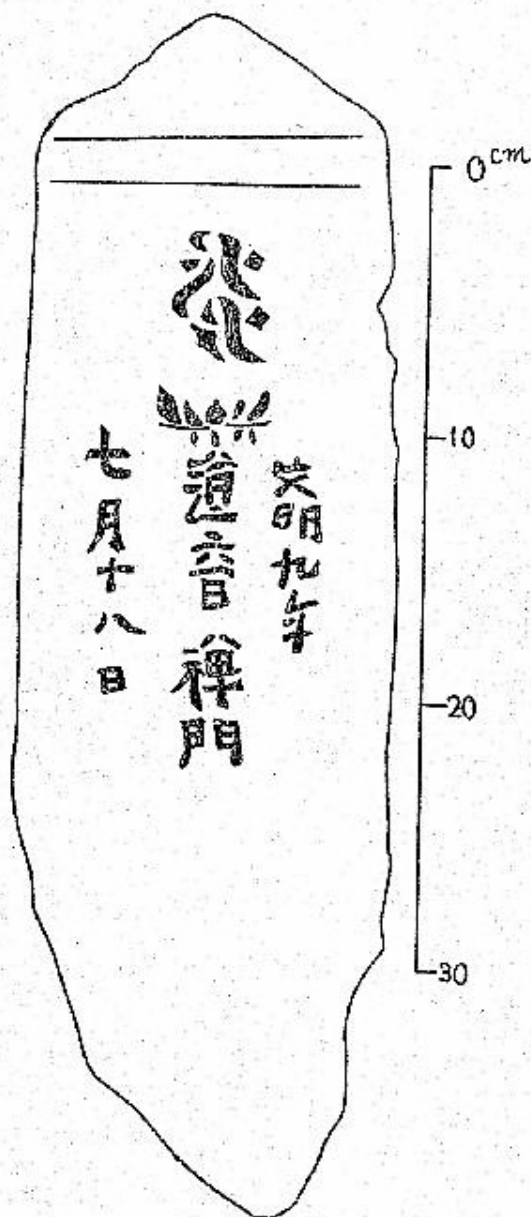
※ □□禅尼という戒名を持つ
女性が、文明7年に逆修供
養したものであろう。

13. 文明9年(1477) 7月18日

弥陀一尊種子板碑



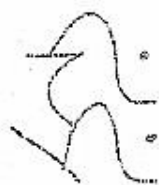
文明九年
道音禪門
七月十八日



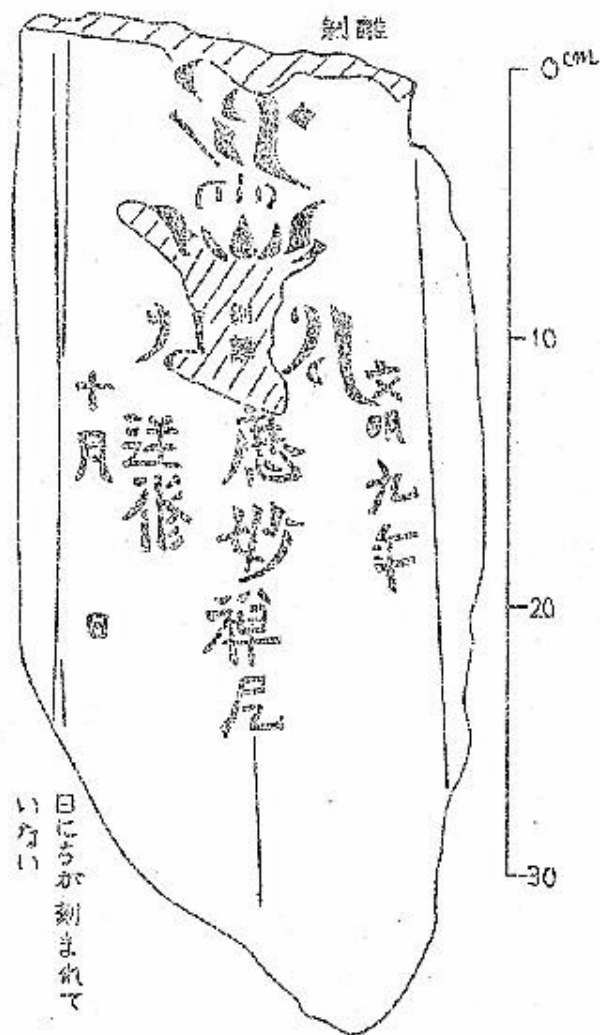
※ 道音禪門という戒名を
持つ男性が、文明9年
7月18日に逆修供養
したものであろう。
この板碑には、二条線
が刻まれていない。

14. 文明9年(1477) 10月

弥陀三尊種子板碑



文明九年
 應妙禪尼
 逆修
 十月 日



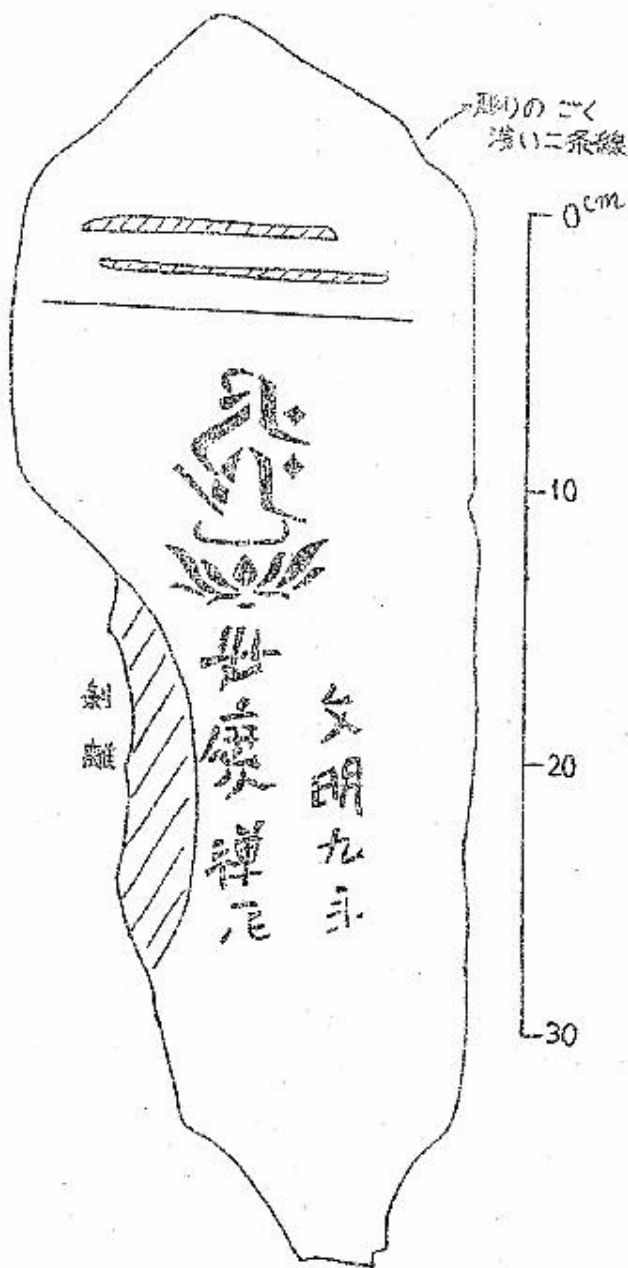
※ 應妙禪尼という戒名を持つ女性が、文明9年10月に逆修供養したものである。蓮台上部に花心が見られる。

15. 文明9年(1477)

弥陀一尊種子板碑



妙
 慶[?]
 禪尼
 文明九年



※ 妙[□]禪尼という戒名を持つ女性が、文明9年に逆修供養したものであろう。蓮台の上部に花心がみられる。

16. 文明10年(1478) 9月18日

弥陀一尊種子板碑



文明十年
道教禪門
九月十八日



※ 道教禪門という戒名を持つ
男性が、文明10年9月
18日に逆修供養したもの
であろう。蓮台上部に花心
がみられる。板碑の上部に
は二条線が刻まれている。

17. 文明18年(1486)

2月吉日

弥陀三尊種子板碑

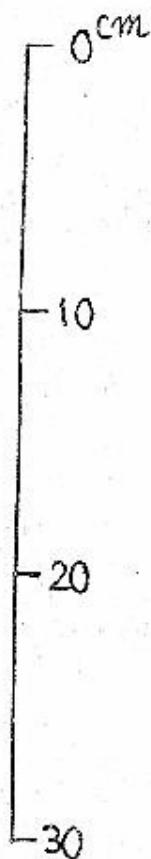


此 逆修 此
 二月 妙心 文明
 吉日 禅尼 十八年

※No.3とNo.7で
 前述した妙心禅尼
 が、文明18年2
 月にも逆修供養し
 たもの。板碑上部
 には二条線らしき
 ものが刻まれてい
 る。蓮台上部には
 花心がみられる。



此 逆修 此
 二月 妙心 文明
 吉日 禅尼 十八年



種子(キリク・サツ)・
 蓮台及び彫りの浅
 い「逆修」を除く
 ほとんどの文字に
 金泥がかすかに残
 る。

18. 文明19年(1487) 5月17日

弥陀三尊種子板碑



石: 石

五月十七日

道? 称? 禅門

文明十九年

五月十七日

逆修禅門

文明十九年



※□□禅門という戒名を持つ男性が、文明19年

5月17日に逆修供養したものであろう。

蓮台上部に花心がみられるが、()のような描き方は後期にみられる特色である。この板碑には二条線が刻まれていない。

19. 文明19年(1487) 10月22日

弥陀一尊種子板碑



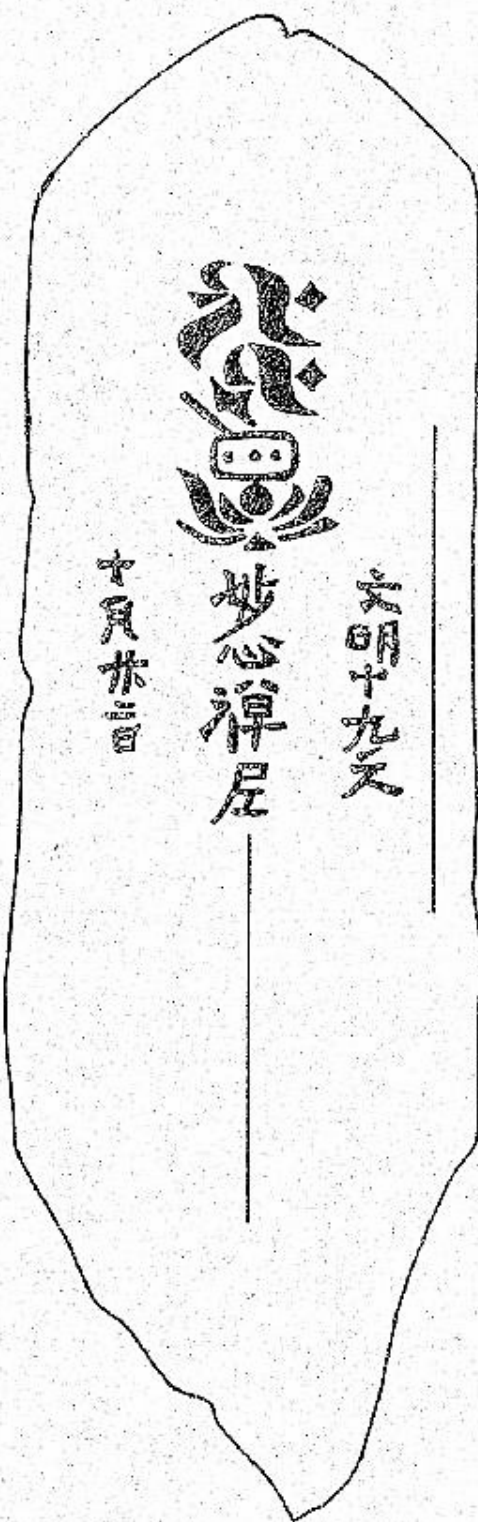
十月廿二日
(三十一)

妙心禪尼

文明十九年
(年)

種子・蓮台・文字「禪」に金泥跡が残る。

※No.17の妙心禪尼が1年後の文明19年10月22日にも逆修供養をしている。蓮台上部に花心がみられる。この板碑は二条線が刻まれている。



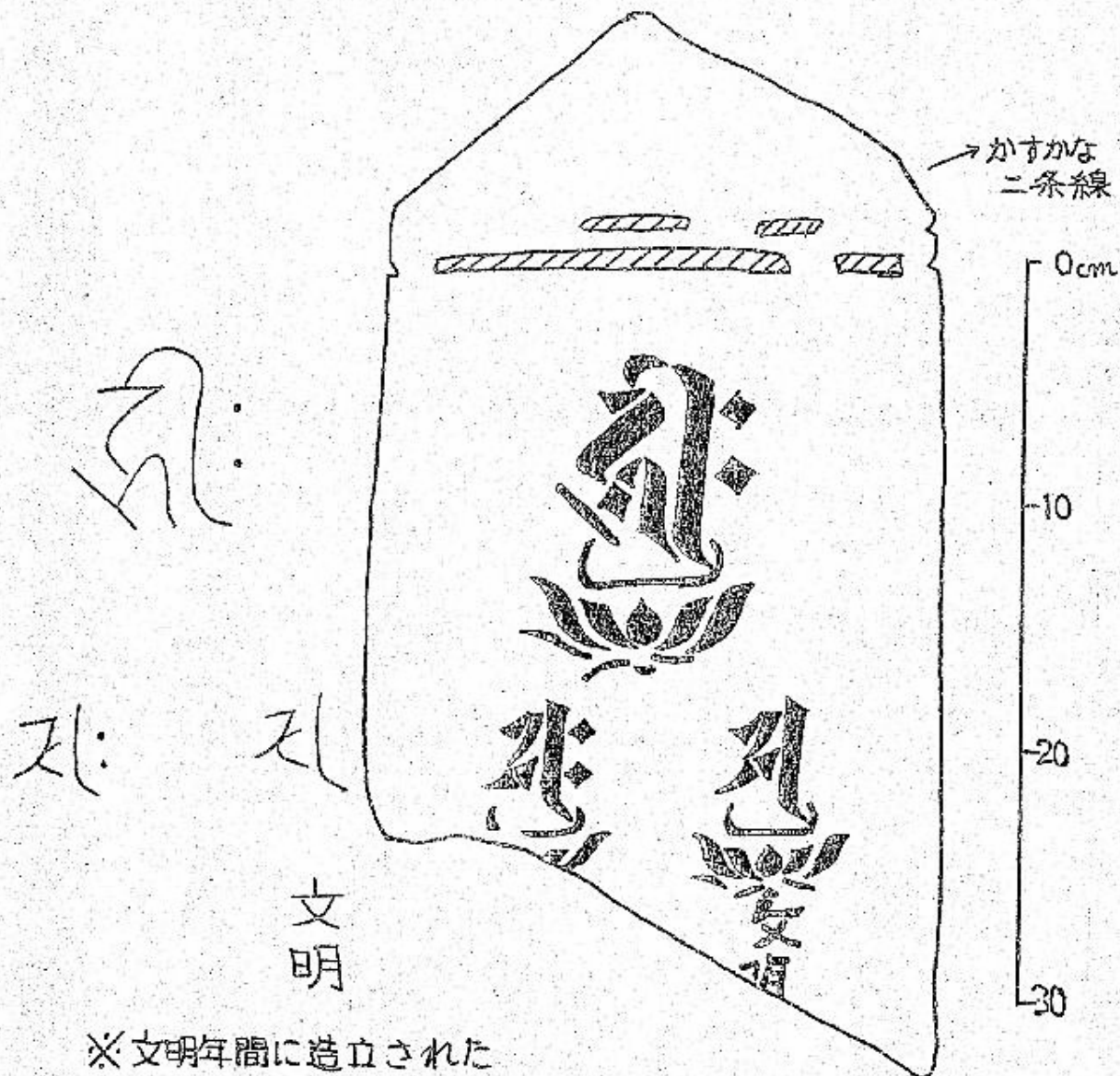
十月廿二日

妙心禪尼

文明十九年

20. 文明年間

弥陀三尊種子板碑



※文明年間に造立された
弥陀三尊種子板碑であ
る。上部の二条線が、
かすかにみられる。

※昭侍の観音の梵字「サ」に
金泥跡が残る

21. 文明年間 12月20日

弥陀一尊種子板碑



十二月廿	道	文明
日	□	
回	禪?	
回	門?	



蓮台・文字「道」
に 金泥跡が残る

※ 道□□□という戒名を持つ男性が、文明年間に逆修供養したものであろう。「妙」の字は女性の戒名の中で使われるが、「道」の字は男性の戒名の中で使われる。

この板碑は二条線が刻まれていない。

22. 明應8年(1499)正月[?]18日

弥陀三尊種子板碑



正 月 田? 八 日	妙 祐 禪 尼	明 應 八 年
------------------------	------------------	------------------

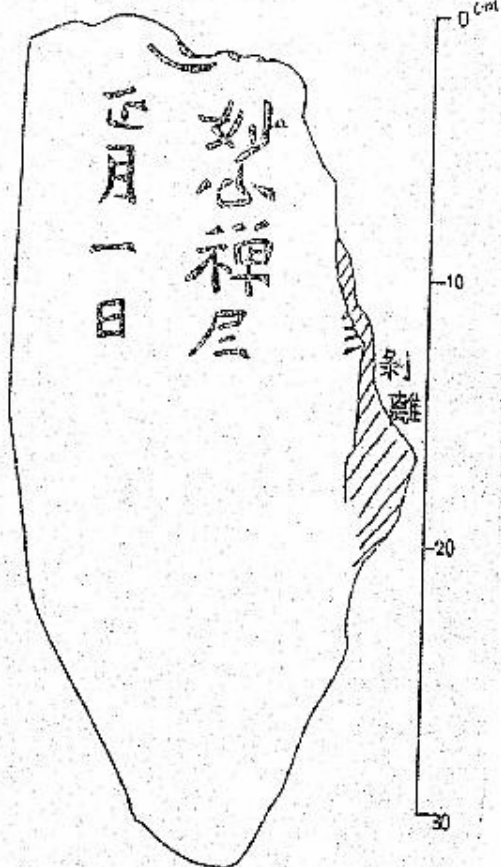


※ 妙祐禪尼(女性)が明應8年1月18日に逆修供養したものであろう。この板碑には、二条線が刻まれていない。

＝年号不明の板碑＝

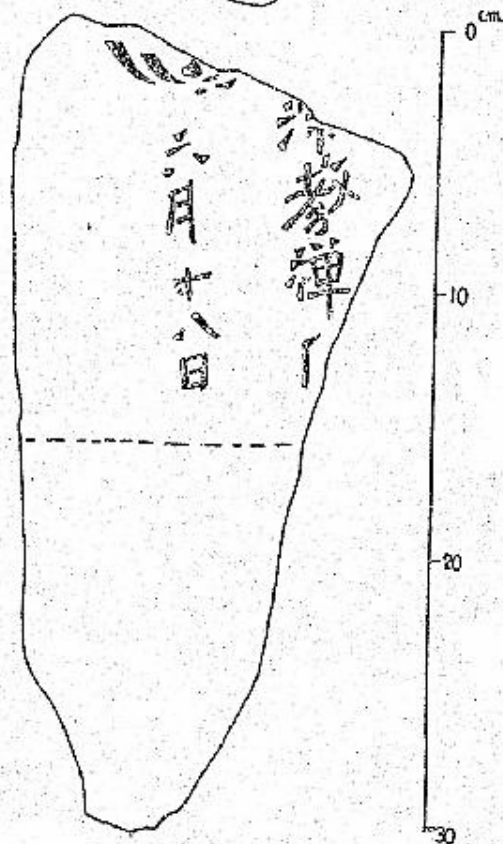
23.

正月一日
妙心禅尼
年



24.

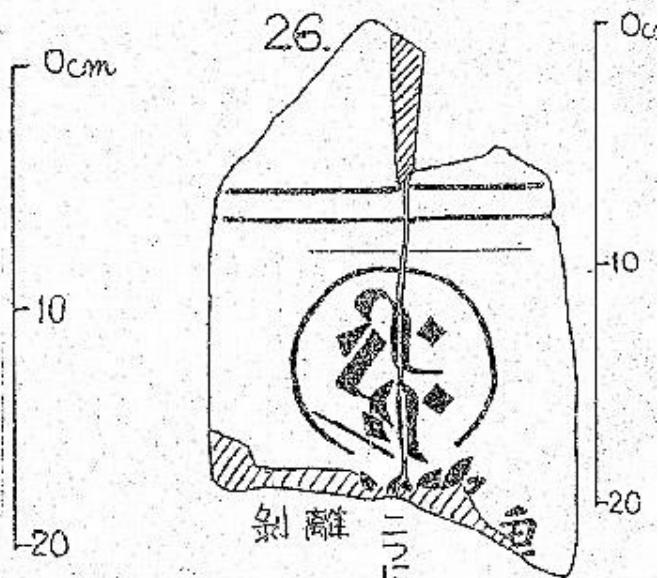
六月十八日
淨教禅門



= 一部解読できる欠落した板碑 =



弥陀[?]一尊種子板碑

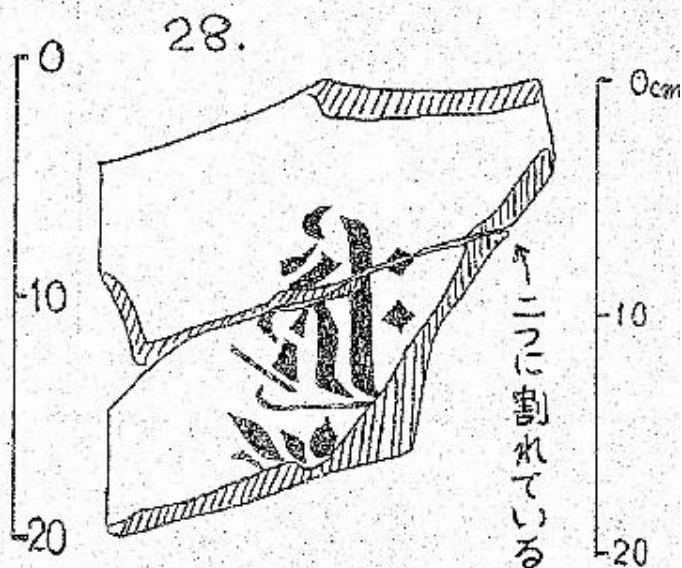


剣離
二に割れ
ている

弥陀一尊種子板碑

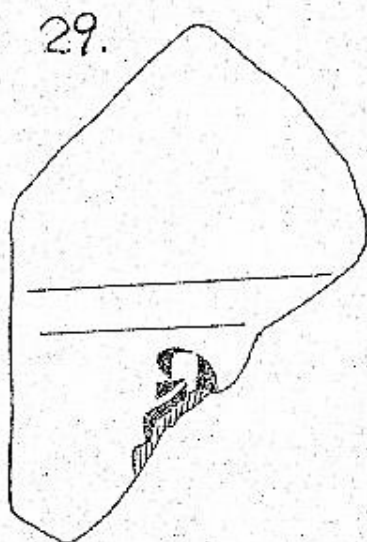


弥陀[?]一尊種子板碑

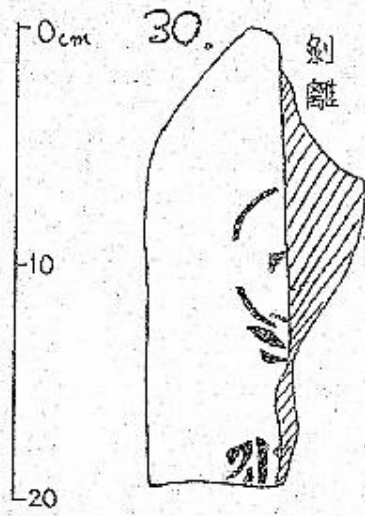


↑二に割れている

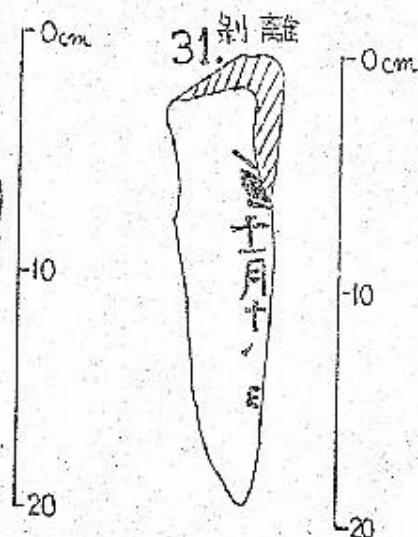
弥陀[?]一尊種子板碑



弥陀種子板碑

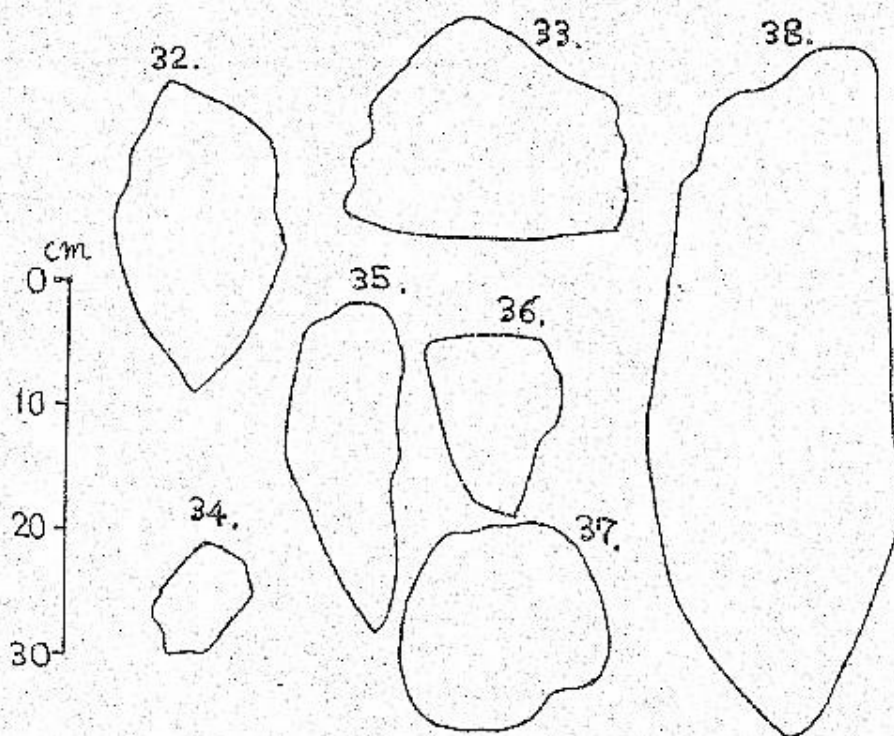


弥陀三尊種子板碑



不明
『十一月十八日』
の文字あり

＝破片・その他＝



→ 表面が削られ、梵字・文字等全く
わからない

平成元年 9月10日